

「JENESYS2.0」

中国農村青年幹部代表団

訪問日程 平成 26 年 3 月 17 日（月）～ 3 月 24 日（月）

1 プログラム概要

中国日本友好協会が派遣した中国農村青年幹部代表団計 30 名が、3 月 17 日から 3 月 24 日までの 7 泊 8 日の日程で来日しました。（団長：王秀雲（オウ・シュウウン）中国日本友好協会・副会長、副団長：任建新（ニン・ケンシン）北京市人的資源社会保障局・副巡視員）

本事業は「JENESYS2.0」の一環として行われ、日本の農業関係者や行政関係者との交流をはじめとしたプログラムのほか、各種農業関連施設訪問・視察、歴史文化遺産参観、伝統文化体験、地域見学等を通じ、クールジャパンに直接触れ、日本に対する包括的な理解を深めました。

2 日程

3 月 17 日（月）

成田空港着、皇居・二重橋見学、オリエンテーション

3 月 18 日（火）

農林水産省による講義、銀座見学、

全国農業協同組合中央会・全国農業協同組合連合会による講義、歓迎会

3 月 19 日（水）

浅草見学、国会議事堂視察、大分県へ移動、和風温泉旅館での日本文化体験

3 月 20 日（木）

安心院町グリーンツーリズム研究会研修、安心院葡萄酒工房視察、

(株)ドリームファーマーズ視察、地元青年との交流、農家泊体験

3 月 21 日（金）

橋津営農組合「よりもの郷」による講義、宇佐神宮見学、福岡県へ移動

3 月 22 日（土）

ドリームファーム浮羽視察、福岡県農政に関する講義、太郎グループ視察、商業施設視察

3 月 23 日（日）

太宰府天満宮、九州国立博物館見学、日本文化体験（茶道）、博多町家ふるさと館見学、歓送報告会

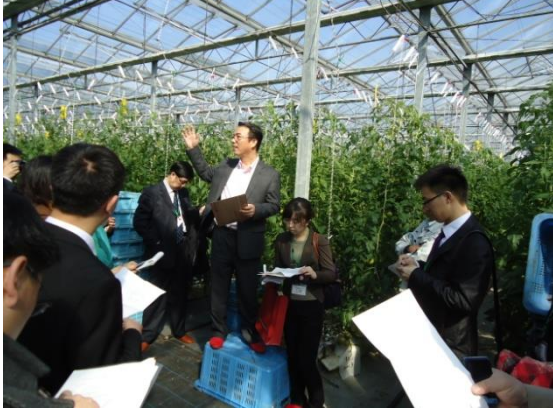
3 月 24 日（月）

アサヒビール博多工場視察、福岡空港より帰国

3 写真

	
3 月 17 日 皇居・二重橋見学(東京都)	3 月 18 日 農林水産省による講義(東京都)
3 月 17 日 参観皇居・二重橋(東京都)	3 月 18 日 农林水产省讲座(東京都)
	
3 月 18 日 農林水産省による講義(東京都)	3 月 18 日 全国農業協同組合中央会・全国農業協同組合連合会による講義(東京都)
3 月 18 日 农林水产省讲座 答疑(東京都)	3 月 18 日 全国农业协同组合中央会・全国农业协同组合联合会 共同讲座(東京都)
	
3 月 18 日 歓迎会 川田勉外務省アジア大洋州局 中国・モンゴル第一課地域調整官の挨拶(東京都)	3 月 18 日 歓迎会 日中友好会館江田会長と武田理事長が団員と談笑(東京都)
3 月 18 日 外務省亚洲大洋洲局中国蒙古第一課川田勉地域調整官在欢迎会上致辞(東京都)	3 月 18 日 欢迎会 日中友好会馆江田会长和武田理事长与团员畅谈(東京都)

	
3 月 19 日 浅草見学（東京都）	3 月 19 日 国会議事堂視察（東京都）
3 月 19 日 参观浅草(东京都)	3 月 19 日 考察国会议事堂(东京都)
	
3 月 20 日 安心院町グリーンツーリズム研究会 研修（大分県）	3 月 20 日 安心院葡萄酒工房視察（大分県）
3 月 20 日 安心院町农村度假研究会 講座(大分县)	3 月 20 日 考察安心院葡萄酒酿造厂(大分县)
	
3 月 20 日 (株)ドリームファーマーズ視察（大分県）	3 月 20 日 地元青年と交流（大分県）
3 月 20 日 考察株式会社 Dream Farmers(大分县)	3 月 20 日 与当地青年进行交流(大分县)

	
3 月 21 日 農家泊体験（大分県）	3 月 21 日 橋津営農組合「よりものの郷」による講義（大分県）
3 月 21 日 体験农家住宿(大分県)	3 月 21 日 橋津農業経営合作社“寄藻之郷”講座（大分県）
	
3 月 21 日 宇佐神宮見学（大分県）	3 月 21 日 博多ラーメン体験（福岡県）
3 月 21 日 参観宇佐神宮(大分県)	3 月 21 日 品尝博多拉面(福岡県)
	
3 月 22 日 ドリームファーム浮羽視察（福岡県）	3 月 22 日 福岡県農政に関する講義（福岡県）
3 月 22 日 考察 Dream Farm 浮羽(福岡県)	3 月 22 日 福岡県作講座介绍农业概要(福岡県)

	
3月22日 太郎グループ 視察（福岡県）	3月23日 太宰府天満宮見学（福岡県）
3月22日 考察太郎組合（合作社）（福岡県）	3月23日 参观太宰府天満宮(福岡县)
	
3月23日 着物着付けの体験（福岡県）	3月23日 日本文化体験（茶道）（福岡県）
3月23日 体験穿和服(福岡县)	3月23日 体验日本文化茶道(福岡县)
	
3月23日 博多町家ふるさと館見学（福岡県）	3月23日 歓送報告会 訪日成果報告（福岡県）
3月23日 参观博多町家乡馆(福岡县)	3月23日 在欢送报告会上汇报访日成果(福岡县)

4 参加者の感想（抜粋）

○ 今回日本を訪れて、深く印象に残ったこと：

1. 清潔で整然としていること。日本の街やトラック等はとても清潔であり、車窓越しに撮った風景は、いずれもたいへん美しかった。
2. 日本人の危機意識。高度に集約化された日本の農業は、中国の目標であるが、日本人はなおも農業の情勢は厳しく、多くの発展の余地があると考えている。教育や医療等の面でも然りである。日本はアメリカやイギリス等の、より発展した先進国に追いつくべく、常に自らに対して最も高い要求を課してきた。
3. 日本人は細部を大切にすること。あらゆる事柄について細心の注意を払い、農業従事者にしても、店員や作業員等にしても、それぞれの職業分野においてプロとしてのレベルに達している。

帰国後は、日本で見聞きしたことを周りの同僚や、同級生、家族、友人等にそのまま伝え、経済分野における日本の進んだ経験を手本としたい。

○ まず、今回の訪問に参加できたことをとても光栄に思うと同時に、ありがたく感じている。今回のテーマは農業である。講義や現場での見学および視察、地元の青年たちとの交流を通じて、日本の農業の概況を知ることができた。

自分にとって、今回の訪問で一番印象深かったのは、農家泊を体験したことだ。受け入れ家庭の旦那さんと奥さんはホスピタリティーに溢れ、奥さんは、朝、私におにぎりの作り方を教えてくれた。通訳を介して、奥さんが私に「あなたにあげられるような贈り物はないけれど、おにぎりの作り方を覚えれば、この後一生役に立つからね。」と言葉をかけてくれたことを知り、感謝した。この日本のお母さんに心から感謝し、別れる時は本当に名残惜しかった。

帰国後は、日本で学んだ農業分野の技術や知識を村民たちに伝え、わが村の実情を鑑みつつ、農業生産の面で新たな突破口を見出したい。友人たちには、日本はとても清潔で、秩序立っていて、礼儀を重んじる国であり、日本人たちはフレンドリーで、温かく、きめ細やかなサービスを提供してくれることを伝えたい。今は、メディアのせいで国民の間に多くの誤解が生じている。本当の日本はすばらしく、学ぶべきところがたくさんある。再び日本を訪れる機会があることを切に願う。

○ 今回の日本での訪問と学びを通して、私の日本に対する見方には、天地がひっくり返るような変化があった。

まず今回のテーマである農業分野に関しては、日本の農業には、私たちが学ぶべきところが大いにあると思う。7 日間の学習を通して、日本の農業には以下のような優れた点があると感じた。

- ①政府が農業を重視し、強力的に支援している。
- ②農地を十分に有効利用し、集約型の高効率農業を展開している。
- ③農協がしっかりと役割を果たすことで、国民に安全・安心な食物を提供できている。
- ④農業関連の法体系が整っている。

⑤日本は地域の特色を生かした農業を発展させており、感服した。

環境に関しては、都市も農村も一様に清潔で整然としていた。ゴミを捨てる際も細かく分別している。緑が豊かで、美しい風景が至る所にある。騒音公害もなく、静かで快適である。

風土や人との触れ合いという面では、大分県での農家泊体験は、今回の訪問で一番忘れ難い思い出となった。脚の不自由なおばあさんが振る舞ってくれた美味しい手料理と、おじいさんの朗らかで優しい笑い声が忘れられない。そして、別れ際に、互いに手を振った時の名残惜しい気持ちは、なお一層忘れ難い。この体験で、本当の意味で日本人たちを知り、彼らの生活に触れるうちに、私の記憶の中の好ましくない印象が消えていった。

最後に、最も記憶に残ったことは、私たちに対する日中友好会館の細やかな心配りである。歓送報告会では私の誕生日を祝っていただいた。思いがけないことで本当に感動した。

日本で見聞したことを周りの人に伝え、中日友好のために私なりの貢献をしたい。

○ 最も強く印象に残ったこと：

1. 衛生的な生活環境 2. 交通 3. 生活習慣や風土

周りの人に伝えたいこと：

1. 日本政府や民間組織による農業関連の制度、政策。企業や個人に見られる、仕事に対するイノベティブな姿勢、真面目さ、誠実さ、責任感。
2. 東京では立体交差等を活用し、限りある空間や面積を有効利用している。我が国の一部の都市でもこの方法を用いれば、速すぎる経済成長が生んだプレッシャーを緩和することに、ある程度役立つと思う。
3. 農村では、中国も日本と同様に、深刻な高齢化の問題に直面している。例えば「安心院町グリーンツーリズム研究会」の農家泊や、「ドリームファーマーズ」の栽培と加工を組み合わせた経営方式、さらには「太郎グループ」のような総合型の高収益農産物企業等、日本の農村で用いられている多様な方法を紹介できると思う。学んだ事柄を総括した上で、中国の農村で多様なやり方を提案し、条件が合えばモデル事業として実施し、普及させることが可能である。

○ 大学生村官の一員として、まず、実施団体が私たちの実情に合った日程を組んでくださったことに感謝する。全体の日程は、日本の農業、文化、商業等の各分野をカバーしており、日本に対する理解を一層深めることができた。その中でも、私にとって一番印象深かったのは、日本の農業である。

日本は、世界でも高齢化が最も深刻な国の一つであり、現在、農業従事者と政府は、いかに農業の発展を維持していくかという課題に直面している。そこに多大な努力が注がれていることを感じた。その中で、農業と旅行を密接に結び付けたやり方には、大いに感心した。大分では、地元の農家に泊まり込み、農村の暮らしを体感した。この体験を通して、受け入れ家庭の温かいおもてなしに私は深く感動し、自分たちが見習うべき点を数多く見つけた。

帰国後は、日本で見聞したことを発表会の形で同僚たちと共有するとともに、掲示板やポータルサイト上で広く伝えるように努めたい。

○ 今回の訪問に参加できて光栄に思う。深い感銘を受けた。日本側の周到かつ入念な対応に感謝する。

最も強く印象に残ったのは、日本は清潔で、整然としていること、独自の民族文化や食文化、アニメ文化があること、建物の構造がシンプルなこと、交通ルールがきちんと遵守されていることである。日本人は向学心が強く、学ぶことに長け、忠実で勇敢であり、信用を重んじ、時間を守り、団結心が強いが、それらが日本の迅速な発展を支えている。

農業の面では、日本政府は明確な農村支援政策の下、農業の高付加価値化を目指し、農家の所得増大に重点をおき、地域資源の強みを生かす形で、農業経済の発展を促している。大分県安心院町の農家泊では、日本の農業、農村、農家の現状にじかに触れることができた。農家の生活を体験し、農業インフラ設備を視察する中で、政府の政策により農家が実益を得ていることが感じられた。日本は内需拡大を発展の絶対的原則とし、農産物の安全性を高め、高収益化を目指す道を歩んでいる。

帰国後は、日本の清潔で整然とした環境や、健康的な食習慣、厳格な規則や制度、人々の資質の高さ等に加えて、農業の発展を促す方法についても同僚や友人に伝え、よりよい中日関係を築くために、微力ながら貢献していきたい。